

ホタル生息調査／金沢ホタルマップ

20年の歩み



金 沢 市

は じ め に

初夏の蒸し暑い夜に、一服の清涼剤のように私たちの心を和ませる「ホタル」。平安時代の書物、清少納言の枕草子にも夏の風物詩として美しく描かれています。

夏は夜 月のころはさらなり やみもなほ ほたるの多く飛びらがいたる
また ただ一つ二つなど ほのかにうら光りて行くもどかし

多く乱舞する^{さま}様もよし、またほんの少しだけ淡く光る様もよし。闇夜のホタルの光は、美しく、そして幻想的。やさしさや、なつかしさを感じる心が私たちには刻まれています。

金沢市では 20 年前から、身近な自然にふれ、人と自然との共生をはかることを目的に、子どもたちによるホタル生息調査を実施するとともに、その成果をまとめた「金沢ホタルマップ」を作成しています。ホタルマップは、市内の小中学校や児童館などに掲示をお願いし、また、希望される方には市民センターなどでお配りしており、毎年新しいマップを楽しみにしていっしょの方も多と思います。

ホタル生息調査は、金沢市子ども会連合会に集う子ども会のみなさんが調査員となって、自分たちの住む町を調査しています。まちなかで数匹のホタルを発見したときの子どもたちの喜びや、100 匹を超えるホタルの光の舞を見た感激、また、ホタルが見られなかったさみしさなどの感想が、毎年たくさん寄せられています。

このたび、ホタル生息調査とホタルマップ作成が 20 年を迎えたことから、これを記念して、これまでのあゆみを冊子にまとめました。ホタルは、この 20 年間で増えてきたでしょうか、減ったでしょうか。20 年の金沢の変化を思い浮かべながら、読んでいただければ幸いです。

最後に、ホタル生息調査にご協力をいただいております金沢市子ども会連合会および各子ども会のみなさまに、厚くお礼申し上げます。

—*

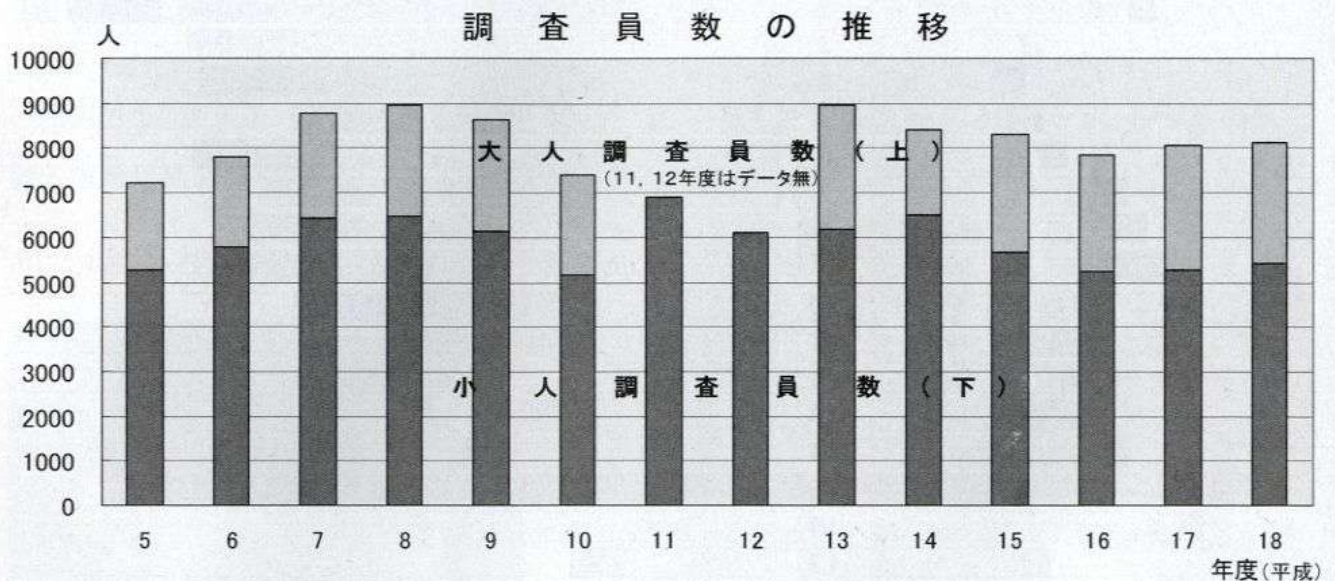
目 次

I. ホタル生息調査のあゆみ	p. 1
II. ホタルの生息状況	p. 1
III. ホタル保護等の取り組み	p. 3
IV. ホタルマップでみる 20 年	p. 4
V. 参加者の感想	p. 10

I. ホタル生息調査のあゆみ

金沢市は、「金沢市子ども会連合会」（当時の「金沢市少年連盟協議会」）に集う子ども会のみなさんの協力により、昭和62年に初めて全市にわたるホタル生息調査を実施しました。

調査は毎年ホタルが飛びかう6月から7月にかけて実施しており、平成18年には、361団体、延べ人数にして8,134人（小人5,405人、大人2,729人）の方が調査員として参加しました。この20年間では延べ16万人の方が参加しています。



きれいな水、土や緑のある岸辺を好む繊細なホタルは、自然の豊かさを示す良い指標です。ホタル生息調査は、参加した子どもたちや保護者のみなさんに、ホタルを通して自然環境の大切さを考えていただくよい機会になっています。

II. ホタルの生息状況

昭和62年の第1回のホタル生息調査の結果によると、10匹以上の生息が確認された場所は、ゲンジボタルが45か所、ヘイケボタルが166か所、合計211か所でした。

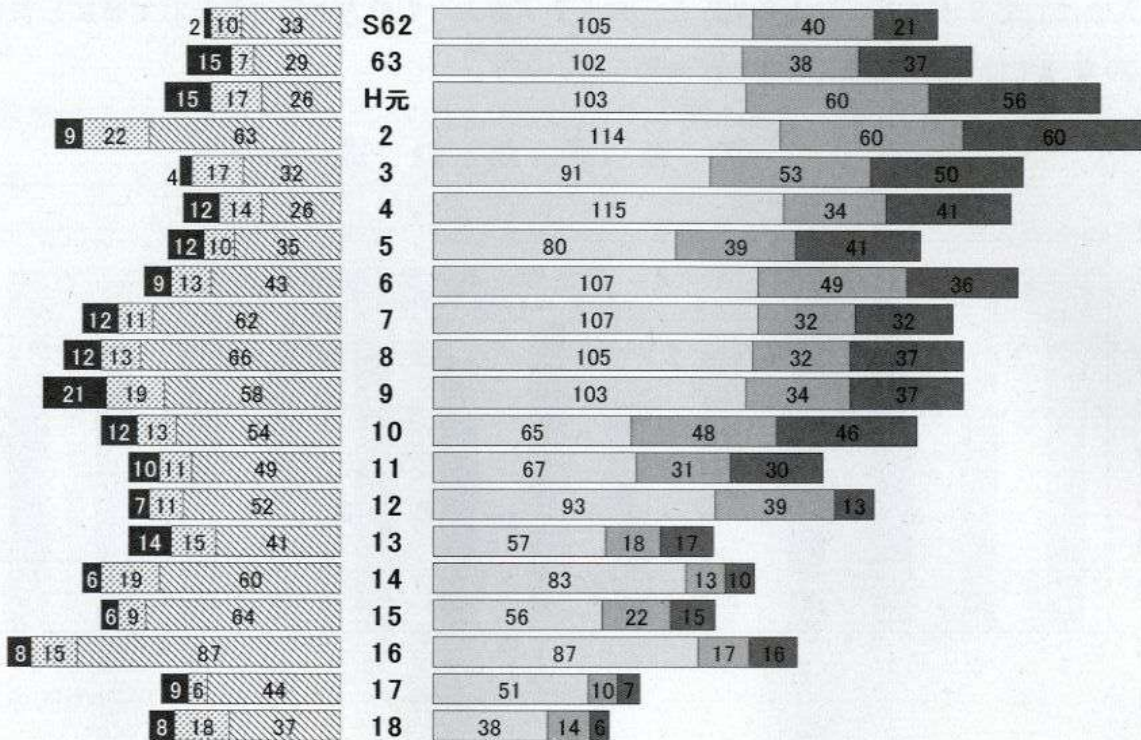
その後、平成2年には合計328か所まで増えましたが、以後は減少傾向で、特にヘイケボタルの確認地点の減少が顕著です。平成18年には合計で121か所（ゲンジボタル63か所、ヘイケボタル58か所）まで減少しましたが、ゲンジボタルの確認地点は徐々に増加しています。

分布は、市街地で少なく、山間部や郊外の水田に多い傾向がありますが、兼六園や白鳥路、長町・長土堀の大野庄用水沿い、それに伏見川沿いなど、市街地の中でもホタルが多く見られる地点があり、都会の貴重な生息地となっています。一般に市街地でホタルが少ないのは、水路が暗渠化されていたり、一年を通じて水が流れていないことや、コンクリート護岸が多く幼虫が流れやすい構造であること、夜間照明がオスとメスの出会いをさまたげていることなどの理由が考

えられます。

ホタルの確認地点は、子ども会からの報告に基づいています。そのため、「調査しなかった」、「調査時期がずれていた」などの理由により、ホタルの確認地点や数に変動があることを了解いただき、大きな推移を見ていただきたいと思います。

確認地点数の推移 (左:ゲンジ, 右:ヘイケ)



ゲンジ: ■ 100匹以上 □ 50~99匹 ▨ 10~49匹 ヘイケ: □ 10~49匹 ■ 50~99匹 ■ 100匹以上

① ゲンジボタル

ゲンジボタルは、一般的にきれいな水が流れる水田の水路や河川に生息しています。市内では、犀川、浅野川、森下川、金腐川、伏見川の各上流域に多いほか、犀川から取水している辰巳用水や大野庄用水、長坂用水などにも生息している地点があります。

確認地点数が増えた地域は森下川上・中流域です。かつてはヘイケボタルが多かった地域ですが、ゲンジボタルの増加の傾向が見られ、地域の様子も変わってきています。逆に浅野川中流の田上地区の確認地点数は、大きく減少しています。これは水田がなくなり、宅地化してきたためと考えられます。

また市街地の真ん中の兼六園や白鳥路にはヘイケボタルとともに多数生息しており、観察会なども盛んに催されるなど、まちなかでの貴重な場所となっています。

② ヘイケボタル

ヘイケボタルは、水田や池、水路などに生息しています。市内では、確認地点数がこの20年間で約3分の1に減っています。特に、北陸自動車道の海側の地域や、浅野川、森下川の上流地

域での減少が目立っています。北陸自動車道の海側は、以前は水田地帯でしたが、都市化・宅地化の進展により、水田がなくなってきたためと考えられます。

また最近では、新たな道路が整備された地域で、確認地点数が減ってきており、一地点での生息確認数も減少したという報告が寄せられています。

開発と自然環境保全の両立は難しい課題ですが、ホタルのすむ環境を大切にし、自然との共生を目指した取り組みを進めていくことが必要です。

Ⅲ. ホタル保護等の取り組み

市内では、金沢市やホタル愛好団体によるホタルを通じた環境教育の取り組みや、ホタルの保護・復元活動が行われています。ここでは市の取り組みを2つご紹介します。

① ホタル観察会（涌波地区・辰巳用水）



毎年、親子向けの観察会を実施しています。金沢ホタルの会から講師を派遣してもらい、ホタルの一生や光り方の違いについて勉強したあと、用水などにホタルを探しに行きます。住宅地ではホタルが見られることも少なく、初めてホタルを目にする子も多く、本物のホタルを発見したときは大変な喜びようです。

ホタルを通して、良い自然環境を守ることの大切さを学んでもらっています。

② まちなかホタル生息促進事業

市の中心部のまちなかで自生するホタルが見られることは、全国的にも大変珍しいことです。この貴重な生息地を保全し、さらにまちなかでホタルがたくさん飛び交う魅力あるまちづくりを進めるため、

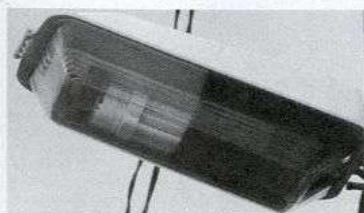


従来からさまざまな取り組みを行って来ましたが、平成18年度から「まちなかホタル生息促進事業」として政策の総合的な連携をはかっています。



・ホタル愛護市民ボランティアの育成（上写真：白鳥路での現地研修の様子）

- ・ホタル保護を呼びかける立看板の設置
- ・観察会の開催
- ・夜間照明がホタルの生息に影響しないように街路灯を改善（遮光板の設置など）



（拡大図）黒い遮光板が、右半分に入っています

などの取り組みを行っています。